

教育環境整備に係る経過・要点について

1 経過

少子化により複式学級、小規模校が増加。子ども達の適切な学習環境を整えるための検討を実施

- ・平成19年8月 「上山市立小・中学校将来構想検討委員会」を設置。諮問
- ・平成20年3月 同委員会より検討をまとめた「上山市立小・中学校将来構想」答申
4月～平成21年10月 将来構想について地区・保護者説明会等を実施
- ・平成21年11月 教育委員会で魅力ある学校づくりのため、中学校区単位での小・中学校統廃合案を示した「上山市立小・中学校統廃合実施計画（案）」を策定
本計画案に基づき、中学校区毎に統合検討委員会が設置され検討を実施
- ・平成23年3月 中山小学校を南小学校に統合
- ・平成25年3月 本庄小学校、東小学校、宮生小を統合し、宮川小学校を4月に新設
- ・平成27年3月 西郷第二小学校を南小学校に統合
- ・令和4年3月 西郷第一小学校を南小学校に統合

2 要点

■「上山市立小・中学校将来構想」（平成20年3月） 参考資料1

学校の統合ありきではなく、子ども達にとって最善の教育環境とは何かを議論。検討過程で小規模校のデメリットを抜本的に解消することには限界があり、これからの学校・学級規模のあり方と適正配置を検討する必要性に迫られ、児童・生徒の資質向上を目指す魅力ある学校づくりのための統廃合のあり方等を答申。

基本的考え方

- (1) 魅力ある学校とは、学校本来の目的・役割である子ども達の「人間形成」と「学力の向上」を確実に達成できる学校である。
- (2) 上山市における魅力ある学校づくりのための望ましい規模は、小学校は1学年2～3学級以上、中学校は1学年3学級以上と考える。そこで、当面市内に存する小・中学校の複式学級を早急に解消することが求められる。
- (3) 複式学級の解消を進める学校の統廃合に当たっては、子どもを中心に据えた将来展望に立ち保護者や地域住民の意向を十分聴きながら、具体的な方策案等を検討すると共に、地域にあった方策で取り組んでいく必要がある。

■「上山市立小・中学校統廃合実施計画（案）」（平成21年11月） 参考資料2

地区・保護者説明会を経て、「上山市立小・中学校将来構想」としての学校統廃合に係る原案

基本的考え方 子どもの「人間形成」と「学力向上」を確実に達成できる魅力ある学校づくり

- (1) 複式学級の早期解消
- (2) 現在の中学校区内での統廃合の検討
- (3) 小・中一貫教育の推進
- (4) 保護者や地域住民の意見の尊重